

バレーボール競技人口の減少に対する対策
How to deal with decreasing population of volleyball players
1K07A142-9 塚越健司
指導教員 主査 中村好男先生 副査 岡浩一朗先生

【序論】

バレーボール界は、各年代で競技人口減少という重大な問題に直面している。バレーボールはテレビで放送されるような「競技スポーツ」としてだけでなく、学校体育における「教育のためのスポーツ」や、心身の健康を目的とした「生涯スポーツ」として、大きな役割を果たすため、競技人口減少を防ぎ普及させていく必要があると言える。現在、バレーボール競技者の実態調査や普及活動についての研究報告はほとんどされていない。そこで、本研究では、競技者の実施要因を調査し、バレーボール競技者減少に対する対策を考える。

【研究Ⅰ】成人における競技者の特徴

(1) 目的と方法

成人の競技人口が大幅に減少している原因は、個人の身体要因や環境要因、社会的要因、個人の心理的要因であり、競技者の特徴を明らかにすることで普及対策を検討することができると考えた。

スポーツライフ・データ(2008)でバレーボールを実施していると回答した86人を抽出し、質問項目を要因別に区別して2次解析を行い、成人のバレーボール競技者の特徴を明らかにした。

(2) 結果

実施理由は、「友人・家族とのコミュニケーション」が50%、「健康や体力の保持・増進のため」「体型の維持・改善のため」が続く結果となった。

運動・スポーツの重要性では、「重要である」、「どちらかといえば重要である」合わせて9割の人が運動の重要性を感じていることが示された。

(3) 考察

結果から、実施要因には「友人・家族とのコミュニケーション」など他者と関わる社会的要因が大きく影響すると考えられる。バレーボール競技者には、運動への意識が高い人が多いことがら、まずは、バレーボールに限らず運動の重要性を理解し、意識することが、競技者増加につながると考えられる。

【研究Ⅱ】大学生競技者の卒業後の継続性

(1) 目的と方法

大学生バレーボール競技者を対象に質問紙調査を行ない、学生から成人への生活環境の変化に伴うバレーボール実施に関する調査を行なった。

早稲田大学バレーボール部、同大学のサークルに所属する計113名に調査を依頼した。(回答率95%)

まず、大学生バレーボール競技者全員を対象とし

て、始めた年代や、きっかけ、実施要因、今後の継続性について調査を行ない、大学生競技者の特徴を明らかにした。

次に、所属チーム(部活とサークル)、始めた年代(小学校・中学校・高等学校・大学)で分類し、実施要因や今後の継続性について、分類ごとに特徴が見られるか検討を行った。

(3) 結果

始めたきっかけについて、「部活動・サークルを見学して」が3割、「親・兄弟がバレーボールをしていた」が続く結果となった。また、始めた年代は中学生が5割を占める結果となった。また、全体の6割の人が今後もバレーボールを継続したいと回答した。継続方法については、「地域のチームに参加」と「入社する会社のチーム」で約7割となった。一方、継続しない理由については、「時間が無い」「仲間がいない」が8割を占める結果となった。

部活生とサークルの比較では、主な実施目的が「目標や記録への挑戦」と「友人とのコミュニケーション」で異なっていて、始めた年代が早い人に部活生の割合が多く、現在の実施状況には有意差が見られた。しかし卒業後の継続性については、始めた年代や、部活生とサークルで有意な差は見られなかった。

(4) 考察

バレーボールを始める場として中学校での部活動が大きな役割を果たしていると考えられる。また、部活生とサークル、始めた年代が卒業後の継続性と有意な差がみられなかったことから、学生時代の実施環境が、卒業後の実施環境と全く異なるため、関連性がないと考えられる。実施目的はそれぞれ異なっている、地域のクラブや会社のチームなど、卒業後にも実施環境(場所・チーム・仲間)が身近に揃うことが、継続する大きな要因となると思われる。

【結論】

研究Ⅰ、研究Ⅱの結果を踏まえると、成人のバレーボール競技人口を増加するためには、大学卒業までの競技歴に関わらず、成人になった時に、近くにチームがあることや仲間がいること、体育館があるなど、学生時代の部活やサークルと同じような定期的に行なえる環境が身近にあることが、競技人口を増やす上で重要であることが示された。

具体的な方法は、各地域の環境や年齢層などにより異なってくるため、競技者の属する環境に合わせたアプローチを行なっていく必要がある。